



# 心くろう通心

## 大震災 私は忘れない

### <現地に駆けつけたボランティアの話>

エコッコ プロジェクト  
ecocco projectの三上光人さんがお話ししてくれました。

私は大きな被害にあった大槌町の知り合いを、震災後 20 日目に 3 人で訪ねました。そしてそのあまりの惨状に声をのみました。息が出来ないような臭いが、あたり一面にただよび、テレビから見る印象とはまるで違いました。

それまではボランティアなど、あまり意識したことはなかったのですが、何かしなくてはという思いがふつふつとわいてきました。2回目は 11 名の仲間と出かけました。

朝 3 時半出発夜 10 時弘前着の強行軍です。前回に避難所の人や役場の人とも、つながりを持つことができていたので、すぐに清掃の仕事にまわりました。ガレキで道がふさがれた所が、車が通れるようになったり、自分達が掃除した幼稚園がきれいになっていくのを見ると、希望がわいてくるような気がしました。

届ける支援物資は、役場からもらった物品のリストをもとに、ネットやラジオなどで集め、多くの人に応援してもらいました。出かけるためには人数を集め、車を手配し、ガソリンも必要です。決して楽なことではないけれど、やらないではいられません。5 月後半にもまた行く予定です。

しかし復興にはまだまだ時間がかかると思いますので、少しずつでも息の長い応援が必要だと思います。また長く続けるための、公的な支援の仕組みなどの必要も感じました。そしてなによりもこの災害の事実を忘れないことが大切だと思います。



### <被災地応援のためのイベント>

5 月 1 日 (日)、蓬萊広場<sup>エコッコ プロジェクト</sup>で ecocco project の三上さんを中心としたアース・デーが開催されました。

聖愛高校のチャリディングなどのパフォーマンスや、現地へ行かれた災害ボランティアの方たちの体験談、また、たくさんの出店も並びました。雨の中でしたが、たくさんの人の思いや熱意を感じました。

今回のイベントでの売り上げは大槌町支援（現地で被災者の皆さんが楽しめる催しの開催）を目的としています。

### 切り絵挑戦したいな ほくも 私も



りんごづくりの合間に趣味として続けていた切り絵が誰かの役に立つのであればと参加しました



これ、ぜ～んぶ廃材で作りました。手作りってホッとするね！！やさしいね。

普段は仕事でボランティアはなかなかできないので、この機会を利用して参加しました。

“日本彩書道会” 田澤さん  
八戸在住の息子さんも被災したことがきっかけで、4 月 20 日前から中三前などで募金活動を開始！ハガキなどの売り上げは全て寄付するそうです。



🌿 今回の災害で様々なボランティアが必要とされており、その活動の内容をいくつか紹介いたします。🌿

### ☆子どもと遊び隊

避難所の子どもたちを昼に預かり遊びを提供する活動です。年配者や病気の人たちにほっとする時間ができ、子どもたちのストレス解消にもなるようです。🇯🇵🇺🇸🇺🇸🇯🇵

### ☆花を送ろう

ガレキの山だけを見ていると苦しくなると言います。花の種や苗を持っていて花を咲かせ、被災地の人たちの心が少しでも和む事が出来たらという活動です。

### ☆寝具セット支援オーナー募集

皆さんで協力して集めた1万円(もちろん1人で1万円でもオーケーです)を寄付すると、被災地の方に寝具一式がメッセージを添えて届けられます。送られた方からお礼の手紙が届くこともあり、顔の見える活動です。



## 災害ボランティアを体験して

エコッコ プロジェクト

4月2日、ecocco projectの三上さんと有志11名で、岩手県大槌町へ行ってきました。主な支援内容は、弘前で集めた物資の引き渡し、津波で被害を受けた幼稚園の泥片付け、破損したり汚れたりした備品等の仕分けや処分でした。



大槌町へ向かう車中、釜石市へ入ると、もともとあった建築物、地形が判別できない風景で、あちこち大量のガレキが散乱し、津波で流された船や車が、まるでおもちゃを放り投げたように転がっていました。「荒廃」という言葉を越えた様でした。



大槌町の地を踏むと、テレビでは伝わらない、魚の腐敗臭とヘド口臭の混ざった、今までに感じたことのない臭いが鼻をつき、マスクを装着しても嗅覚を刺激するほどでした。

周囲に海風をさえぎるものがないため、風でまき散らされた砂が肌に痛く当たりました。避難所の仮設トイレを借りた際、「女性と子どもは絶対にひとりではトイレに行かないください」の掲示物にも被災地の人々の大変さが感じられました。

泥片付けした幼稚園の大量の泥と、いびつに形を変えた遊具、楽器、机、椅子やロッカー、泥水に浸かりずっしり重くなった書類、写真や園児の持ち物などの思い出の品々が散乱し、果たしてどこから作業を開始していいものか、今日中に終わらせることができるのだろうかと呆然とし、立ち尽くしてしまいました。そんな中でも被災者の方々はみな気丈に見え、自分たちの生活を取り戻そうという前向きな姿勢が救いでもあったのですが、掛ける言葉が見つからず、自分の不甲斐なさに涙が出そうになるような気持ちをこらえて黙々と作業を進めることで自分を立て直しました。

ここ弘前で普段通りの生活を送ることが誰にでもできる一番小さなボランティアです。ボランティア直後は、これから先の生活への心の準備、そして、ひとりひとりの考え方の転換が必要であることを強く心に刻み、自分自身の生き方の向上にもつなげていくのを目標にしようと思いました。ところが、数日過ぎた頃に、そんな思いが強すぎたのか知らず知らずのうちに自分の心のハードルを高くしていたようで「震災ボランティア疲れ」をしている自分がいました。これからは、自分自身を見失わないように心のバランスをとるのが今後ボランティアを続けていくコツだと身をもって学びました。

何もできない自分を責めていませんか？ 思いがあっても出来ないこともあります。生かされている自分の命を大切に、生きられなかった人の時間を大事に過ごし、相手を思いやり「一緒に頑張りましょう！」心の中で願うだけでも充分です。被災者支援は始まったばかりです。これから先の長い活動になります。継続することがもっとも大切な支援ではないでしょうか？(ボランティア支援センター小田切より)

### 災害ボランティアについて

災害ボランティアの活動参加等についてはボランティア支援センターブログや新聞等でご確認いただくか、ボランティア支援センターまでお問い合わせください。

### ボランティア支援センターでは、

今年度も「ほっと・ほらんていあ」を開催いたします。以前の「井戸端会議」同様にボランティアされている方は情報交換・ネットワーク作り、ボランティアをした事ない方でもどなたでも無料で参加できます。内容については広報やチラシなどごらん頂くかボランティア支援センターにお問い合わせください。

<製作> 市民ボランティアスタッフ <製作協力> 弘前市ボランティア支援センター  
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター2階  
月～土曜 9時～17時

TEL: 38-5595 FAX: 36-1822

H P: <http://www.hi-it/vsc>

情報紙についての意見・感想をお待ちしております。